

3-① 問題点

- ・ 幾つかの立場の視点から
 - 医療機関（検査部門、システム部門、情報管理部門、その他）
 1. 重複コードが存在し、採番の障害となっている。
 2. 識別・材料コードが多様化していて、採番が行いにくい。
 3. 測定法コードの粒度がまちまちで現状に合っていない。
 4. 結果コードは、共有と固有に別れ、固有を有するコードは、共有コードの情報が欠損する。
 - 研究機関
 1. 検査結果が標準化されていないので、現在の測定法分類では臨床検査データの二次利用に有効でない。
 - 業界団体（システム、検査、試薬、その他）
 1. 各病院で検査項目名称や検査結果の基準値や単位などがことなるので、マスター作成に時間がかかる。
 2. 検査センターと病院間でのコードの紐付作業において、測定法の粒度や結果項目の構成の違いなどが障害となっている。

3-② 到達目標

1. 重複コードとなっている項目の確認と解消案を提示する。
2. 採番を困難としている識別・材料コードの整理・見直し案を提示する。
3. データ二次利用に有用な測定法の分類を提示する。
4. JLAC10 の構造を見直し、採番の容易さおよびデータ二次利用に有用な構造変更案を提示する。

3-③ 設定した課題

想定および検討課題

想定する使い方

1. 検査センターと病院間でのデータ交換利用の促進。
2. 地域連携システムにおける情報共有コードとして使用する。
3. 健診にて使用する。
4. 検査データの二次的利用に適応するコードにする。
5. 病院内での使用には、基本的に対応しない。

討議項目

1. 分析物コード：セットコードによるコード重複化への対応
2. 識別コード：項目の整理・選別
3. 測定法コード：粒度問題およびデータ二次利用への対応
4. 材料コード：項目の整理
5. JLAC10 の構造について：有用な構造変更について
6. その他：結果識別コードなど

3-⑤ 次年度の課題

1. 測定法コードの分類についての方針を決定する。
 - ・ JLAC10 のポリシーを明確化する。
 - JLAC10 の目的の優先度を定める。
2. データ二次利用への対応
 - ・ データの標準化されている検査項目・検査法について整理する。
 - ・ JLAC11 の考え方について（必要か否かについても含め検討する）
3. 生化学以外の検査項目について同様に検討する。
4. 検査センターと病院間のデータ連携に関する検討を行う。
 - ・ 検査項目に対応する結果構成の違いについて調査検討する。
5. その他の採番時の問題点について
 - ・ 符番時に重複コードとなってしまう場合の回避ルールを検討する。
 - ・ 遺伝子検査などの新技術に対応するための採番ルールを検討する。
6. 適用細則の見直し
 - ・ 上記を踏まえて採番に関するルール、適用細則の見直し整備する。